

# 公孫樹

2025年5月発行

第160号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



山村御流生け花 シャクヤク 画 山寄淑子

## お久しぶりです!!

四月二十六日、車の免許が取れた…と東京、群馬、名古屋から、一台のレンタカーに乗り合わせて、男女五名のベトナム人が訪ねてきてくれた。慶蔵院「てらこや塾」で日本語を学んだスカラシップ留学生たちだ。2011年〜2018年の八年間に滞在した生徒の内、現在七名が日本で仕事をしている。二十七日、朝六時の勤行後、お詣りの皆さんに、近況報告をしてくれた。

**トウ君 一期生**…二〇一一年から一四年がたち、ようやく戻ってくるチャンスを得られました。一四年前に伊勢神宮で願ったことがかないました。群馬県にある道徳教育研修施設で働いています。来年もまた訪ねたいと思います。

**ホアン君 二期生**…二〇一四年にベトナムの大学卒業後、日本に来て国際観光学を学びました。コロナ禍の影響でチャンスを失い、テクノロジー企業に入社。名古屋で働いています。

**ミン君 二期生**…日本に来て四年になります。東京在住です。安全装置製造メーカーで、営業の仕事をしています。これから十年、二十年たっても「てらこや塾」で習ったことを忘れず、活かして、もっと成長したいと思います。

**ホア君 三期生**…群馬県で外国人就職実習生の通訳や管理、総務經理の仕事をしています。この五年間の経験を活かして七月にベトナムに帰国し、新しいことに挑戦したいと思います。

**ハインさん 六期生**…二〇一六年の「てらこや塾」留学後、約一〇年、大学を卒業し、今年名古屋の会社に就職しました。浄化槽の検査をする会社です。新入社員として見習い中です。

日本語を教えていただいた八木先生、河井先生も喜んで、面会に来て下さいました。



# 5月の行事予定



|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 7日(水)     | 写経会   | 午前10時～<br>本堂にて   |
| 14日(水)    | 羊毛フェルト教室<br>講師 monmo先生<br>男性詠唱隊<br>落語会「いちご亭」<br>南遊亭栄歌・安楽亭東風 | 午後1時～3時 一会館にて<br>参加費 1500円<br>午後1時半～3時 本堂にて<br>午後7時～ 一会館にて |
| 12日(月)    | 華道「山村御流」教室<br>講師 小森清真先生                                     | 午後1時半～<br>参加費 2000円と花代                                     |
| 21日(水)    | 健康教室<br>講師 馬場久美子先生<br>特別ゲスト近藤さんの醗酵食品の話。試食もあります!!            | 午後1時～3時 本堂にて<br>参加費 500円                                   |
| 8日(木)     | ともいき英語サロン<br>講師 三浦邦昭先生                                      | 午前10時～11時半<br>午後1時半～3時 一会館にて<br>参加費1回 1000円                |
| 28日(水)    | 戦没者慰霊・平和の鐘<br>地蔵講・地蔵堂御開帳                                    | 朝の勤行にて、鐘撞きは<br>午前8時頃<br>午後1時半～ 地蔵堂にて                       |
| 9日・23日(金) | 茶道教室<br>講師 河井宗恵先生<br>樋口宗恵先生                                 | 午後7時～子ども茶道教室<br>午後7時半～大人茶道教室<br>参加費 大人 500円 一会館にて          |

## 閼伽水について

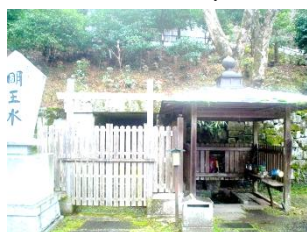
慶蔵院豆知識

24

仏様に供える浄水のこと、サンスクリット語の音写です。阿伽水とも書きます。この言葉は松禅院、四月の念仏会の際、朝の散策に飯室谷不動堂にお参りした時のことです。仁王像の近くに結界がしてある湧水を、閼伽水と言うのだと、土屋正道上人に教えてもらいました。右隣には一般用の湧水もありません。飲ませてもらいました。結界がある方の水は不動明王に御供する水です。千日回峰行の行者さんが、七百日の行を修了した後に、九日間の断食・断水・断眠・不臥の行に入ります。行者さんは不動堂から、閼伽水を汲みに階段を下ります。何人もの従者に抱えられて閼伽井まで下るのです。

知恩院の修正会では、円山境内、吉水の若水(安養寺・慈鎮和尚阿伽の水)を汲み、仏前や法然上人の御影像前に御供します。東大寺二月堂の若狭水も有名です。これらの水には宇宙の真理が溶け込んでいるのではないかと…と思えてきます。慶蔵院でも、湧水を仏前に御供えしてはいかがかと思えます。

「あか」から連想される言葉に、アカシックレコードがあります。サンスクリット語の「アカシャ」に由来し、宇宙のすべてが記録されており、人がいつ死ぬかも記録されているとのことです。



(文 麻畑公生)

## 住職の健康回復への道のり(39)

四月十一日の血液検査結果を報告します。全体としては、一番良い結果が出ました。もう少し努力しなければならぬところの数字のみをお伝えします。

腎臓に関係する尿素窒素(BUN)。クレアチニン。GFRと基準値範囲を超え、推算GFR45基準範囲を下回っています。また赤血球数、ヘモグロビン、ハマトクリットが基準範囲以下です。心配してきた尿酸値が薬を使わずに、ついにのり範囲内に収まることになりました。これは食べ過ぎてしまえばすぐに戻りますから注意が必要なものの、嬉しい結果です。

心臓にたまっていく水も、まだのこってはいくもののがたまってきていると評価していただきました。しかし左足の脛のむくみはまだ残っていますから、まだまだ精進努力が必要なところでした。

現在、首の後ろの内頸静脈の固さの改善を求められています。これが固いと脳内の血流が悪くなるからです。生活の上では、肩の上に乗っすぐに首を置くように気をつけています。

落語会「いちご亭」五月十四日(水)

午後七時 慶蔵院「一会館」にて

出演 法話 慶蔵院住職

落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風

無料です

安楽亭小東風(小学3年・晋之介君)の紙切り、好評です。リクエストにも応えてくれます!!

## 昭和つれづれ物語 ⑤

令和の米騒動と言っけれど今は米はどこにあるのに、ないと言っていると思います。

昔は米は配給でした。戦後は一般用米穀類購入通帳証明書が有りました。一人につき、何キロと決まっていました。米が足りないの代用品(麦、麦粉、いも)など、ご飯の替わりでした。

修学旅行にも米三合、持って行きました。パンも引換券がありました。

昭和四十八年ごろから米もスーパーで買えるようになりました。

今は贅沢な時代です。

(文 中瀬志津子)

私の心の風景は一本のねむの木です。

小学生のころ、田んぼの

畦道に小川が流れ大きな

ねむの木があり、初夏に

なるとピンクの淡い花を

咲かせてくれました。

あの花を見ると、心やさしくなれます。

歌手の宮城まり子さんが「ねむの木学園」を作ったのもそうだったのかな。

今もねむの花が咲いていると、嬉しくなります。

(文 中瀬志津子)



## 慶蔵院 花まつり 5月3日(土)

ペットボトルか水筒をお持ち下さったら、甘茶をお分けいたします。

午前10時～

羊毛フェルトの講師 **monmo さんのお話**

モンモさんの作品もいろいろ見せていただき、羊毛フェルトにたどり着くまでのお話とか、聞かせていただきます。かわいく、素敵な作品たちです。今回、動く作品も登場です。

午前11時～

**花まつり法要**

詠唱隊の皆さんに御詠歌斉唱をおねがいしています。

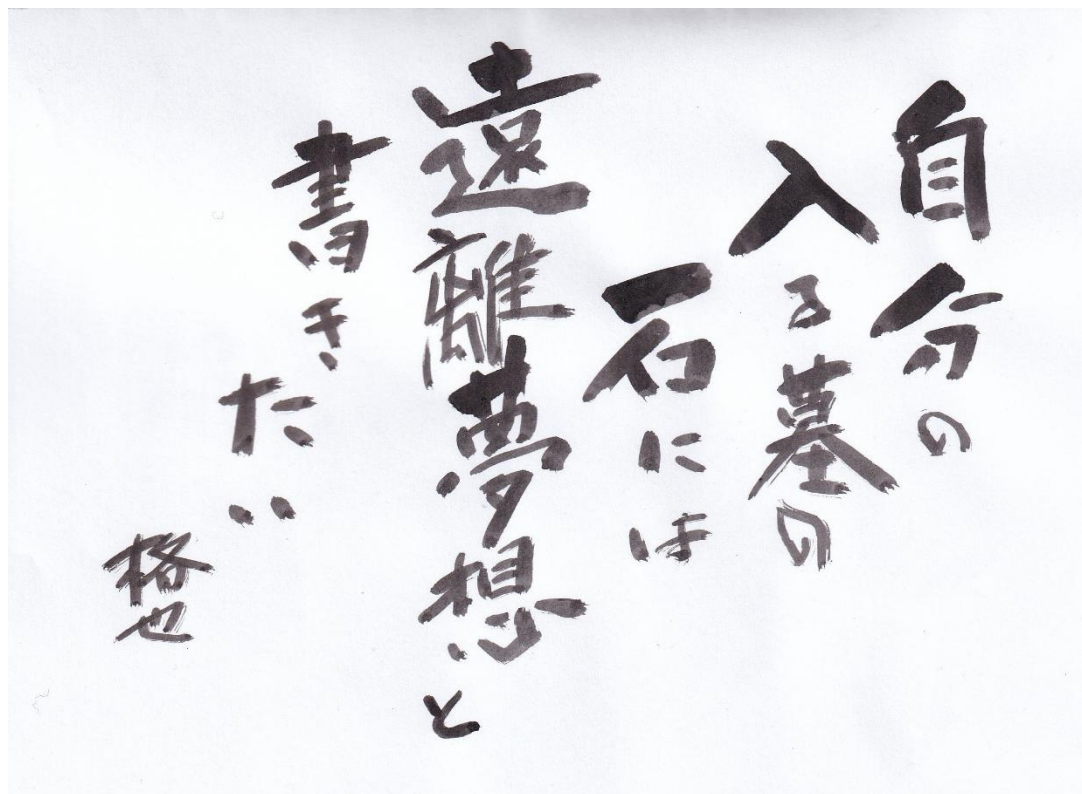
お詣りの皆さんに、お花をお供えして、誕生仏に甘茶をかけていただきます。



また酷暑かと夏の始まり五月晴れ

奥田 悦生

(「知恩」誌五月号 掲載)



☆ご連絡☆

令和七年度の護持会費六〇〇〇円の納入をお願いします。  
半期三〇〇〇円の分納もできます。よろしくお願いします。

五月二日、山門の前に掲示板が建ちます。奥田悦生夫妻から寄贈されたものです。「毎月の言葉」の「字」は、檀家さんで日本習字師範、想和さんにお願いました。「きれいな青空のような瞳をした、すきとおった風のような人」と書いてもらいます。これは「納棺夫日記」著者、青木新門さんの言葉です。

「末期患者には激励は酷で善意は悲しい。説法も言葉も要らないのだ。きれいな青空のような瞳をした、すきとおった風のような人がそばに居るだけでいい」とあります。ホリステック医学医師の常津良一先生は、こんな瞳をした風のような人は、「折にふれて自らの死について思いを馳せている人だ」と書いています。

「黙っていても死に直面している人には、それがわかり、そのことによって、死の不安が少しでも和らぐ…」と書いています。

お彼岸前のことです。来てほしいと言われて、在宅の末期ガンの方を訪問しました。

「こんな身体になってしまっって、早く死にたいです。今日から何も食べないでおこうと思います」

「その時が来たら、私も食べることを止めるかもしれません。食べるか食べないかは自分で決められます。でも死ぬ時を決めるのは自分ではないです。来いと言われたら行ください。『いのち』頂いている私たちは、生命ある限り、この世での務めを果たす必要があるのでは…」

「忘れていました。嫁も息子も良くしてくれます。美味しいものを用意してくれます。感謝しています。『死にたい』と言っつのは止めて、『ありがとう』といいます」

この言葉を実行して、この方は一週間後、お嫁さんに看取られて、往生されました。